

今回、最優秀賞を獲得したのは市場小6年の山鹿美帆さんでした。山鹿さんは、2月5日(日)10時から香春町町民センターで開催される田川地区大会で、福智町代表として発表する予定です。

※各発表者の文章は原文のままではなく、主張の主な内容として要約して掲載していますのでご了承ください。



Aya Inoue

金田小6年
井上 彩さん
「戦争のない平和な世界へ」

わ たしたち6年生は、10月に長崎へ修学旅行に行きました。日本やアメリカが武器を持ち、相手を力で倒すことで、解決しようとした戦争。その結果、今まで平和だった長崎を、一瞬で不幸にしました。当時5年生だった松尾幸子さんは、原爆でお父さんを亡くしたと話してくれました。しかし松尾さんはアメリカを恨んでないと言い、世界みんなが笑顔で暮らせる世の中をわたしたちに築いてほしいと語ってくれました。わたしは、クラスの友達に注意した時に言い返され、言い争いになったことがありました。また、傷つけるつもりが無いのに友達を傷付けてしまったこともあり、これではいけないと思いました。松尾さんは、人を恨んではいけないこと、相手を思いやることを教えてくれました。それが、平和な世の中を築くことの第一歩なのです。一人ひとりが相手を思いやり、相手から言い返されても間違っているところをうまく教えてあげ、友達の良さを見つけること。それが、松尾さんの願いであり、わたしたちにできることなのです。わたしたちは平和公園で「みんなで思い合い、助け合い、話し合い、いろいろな国の人が笑って過ごせる平和な世界をつくりまします」と誓いを立てました。わたしは、今の平和な日本を誇りに思いつつ、松尾さんの願いを胸に、平和の誓いを実行できるよう努力していきます。



Miho Yamaga

市場小6年
山鹿 美帆さん
「わたしの夢の設計図」

美 帆22歳、歌手になる。10歳のころから部屋に貼ってある、わたしの夢の設計図。「あこがれの絢香さんのような歌手になりたい」。それがわたしの夢でした。でも今のわたしは、その夢が前より少し薄れてきています。それは、友達の夢が、薬剤師や看護師など、社会的に人の役に立つような仕事だったからです。「歌手って、人の役に立ってるの?」夢が悩みが変わっていききました。そんな時、祖母が「夢は人それぞれ。どんな夢を持ってもいいし、今の夢が変わっても、新しい夢に向かって努力できるよ、今すべきことを頑張ることが大切だよ」とアドバイスをくれたのです。あれから1年半、絢香さんは今、病氣と闘い、病を克服することで勇気や希望を届けられると、ベッドの上からメッセージを送り続けています。「今は歌えなくても、今、自分にできることで、みんなの役に立てるよがんばるよ」わたしにはそうメッセージが伝わってきました。そんな絢香さんの生き方が、わたしの『夢の設計図』を変えました。「美帆22歳、みんなから愛される〇〇になる」。今は、そう書き直してはっています。その空白を埋める新しい夢ができるように、人のために役に立ち、誰からも愛される人になれるよう、心を磨き、勉強に励み、努力をしています。12歳のわたしは、そう思っています。今日もまた『夢の設計図』を見て、強く心に誓いながらベッドに入りました。



Ayano Yamagami

伊方小6年
山神 文乃さん
「まほうのあいさつ」

早 く起きなさい。朝から起こされ、とても気持ちが沈んでいました。でも学校へ行く途中、地域のかたや先生が笑顔で「おはようございます」とあいさつしてくれ、とても心がほかほかしてきたので、わたしも笑顔であいさつしました。あいさつをするとみんなが笑顔になります。笑顔ってすごいなと思いました。ある朝、みんなで学校に行っていると、地域のおばあちゃんが「おはようございます」とあいさつしてくれました。しかし友達は何も言わず黙ったままだったので尋ねてみると「めんどくさいもん」と言われました。あいさつが「めんどくさい」「はずかしい」と思う人もいるかもしれません。しかし、そういう人たちも仲の良い友達同士や気持ち良いときにはあいさつができると思います。だから少し勇気を出して、がんばってほしいと思います。そして、あいさつができる仲間を増やしたり、仲間を元気づけたりしてほしいです。わたしは、毎日笑顔であいさつをがんばっています。たくさんの人とあいさつができた日は、一日がとても楽しく過ごせます。学校のみんなが笑顔で楽しく一日を過ごせるように、これからも自分から進んであいさつをします。あいさつは、人だけでなく自分にも感動を与えてくれます。本当にあいさつはまほうのようです。わたしは、大人になっても、おばあちゃんになっても、ずっと続けていきたいと思っています。



Ayuka Yoshida

上野小6年
吉田 証佑可さん
「命の大切さ」

み なさんは自分や人、動物の命を大切にしていますか。わたしは、捨て犬や捨て猫を見ると、心が痛くなります。また、最近では動物ばかりでなく、人間の中でも命が大切にされていないニュースを見かけます。そんな事件は、わたしには許せません。最近、いとこの家で2匹の子犬が産まれました。2匹は93gと95gの未熟児で、乳を飲むことができず、体重が減りだしました。その子犬を守ろうと、おばさんがずっと看病し、2週間、1日3回も病院に通っていました。おばさんが子犬につききりなので、おばあちゃんがおばさん家族の食事を作っていました。わたしは、小さな命のためにみんなが協力している姿を見て、命を大事にする事の大切さを知ることができました。今は、2匹とも元気に成長しています。また、いとこのお母さんに「子どもを産まなければ良かったことある?」と聞くと「一度も無い。こんなに素晴らしい命を授けてもらって、本当に感謝している。私の宝物。大切に育てるよ」と言われ、わたしはその言葉に感動しました。生きていることは素晴らしい。命は大切で、粗末には絶対してはいけないと思いました。みんなが人や動物の命を大切にすれば、捨て犬や捨て猫はいなくなるし、命を粗末にしない世界ができると思います。命には、終わりがありません。だからこそ生きている間は、お互いに助け合いたいです。



Momoka Katsuki

弁城小6年
香月 桃佳さん
「友達っていいな」

目 が覚めるとわたしは、救急車の中にいました。朝4時ごろ、突然けいれんを起こしたようです。病院での検査の結果、脳の血管に異常があることが分かりました。「脳動静脈奇形」という十万人に一人の病気でした。夏休みに入ってすぐ、手術のために入院。手術後、普通の病室に戻ると、担任の小林先生が、クラスみんなの手紙を持って来てくれました。その手紙を読んだ時「みんなが心配してくれているんだ」と、うれしくて元気ができました。友達がお見舞いに来てくれたこともあります。わたしを心配して来てくれた友達の気持ちが、何よりうれしかったです。友達っていいなと思いました。友達が帰る時は、また一人になるのかと思い、さみしくて、少し涙目になってしまいました。さみしい時は、もらった手紙を何度も読み返しました。元の体に戻れるのか不安な時もありましたが、友達が勇気づけてくれたから安心できました。退院後、いよいよ学校へ登校する日。傷口をばかにされないか心配でしたが、みんなは優しく接してくれました。そこで改めて、本当に友達っていいなと感じました。今、友達みんなと過ごせる毎日が楽しいです。これから生活していく中で、友達とけんかすることもあると思うけど、ずっと仲良く一緒にいたいと思います。そして、わたしを励ましてくれた友達みんなに、感謝したいです。ありがとう。



第5回福智町わたしの主張大会／福智町青少年育成町民会議主催
12月4日に公民館金田分館で開かれた「わたしの主張大会」。
町内全8校の代表者が、壇上で堂々と自分の気持ちを表現しました。
会場での発表内容から、福智の子どもの思いに触れてみたいと思います。

想いよ、届け。